

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	66人	算数	66人	理科	66人
第5学年	国語	68人	算数	68人	理科	68人

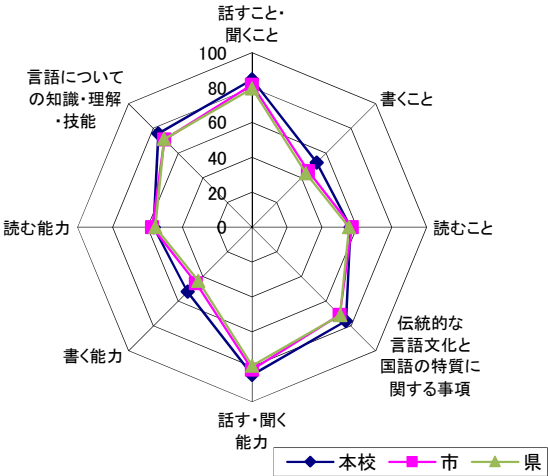
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	84.6	81.6	79.4
	書くこと	52.3	45.4	43.6
	読むこと	56.4	57.2	55.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.0	71.1	71.4
観点	話す・聞く能力	84.6	81.6	79.4
	書く能力	52.3	45.4	43.6
	読む能力	56.4	57.2	55.5
	言語についての知識・理解・技能	76.0	71.1	71.4



★指導の工夫と改善

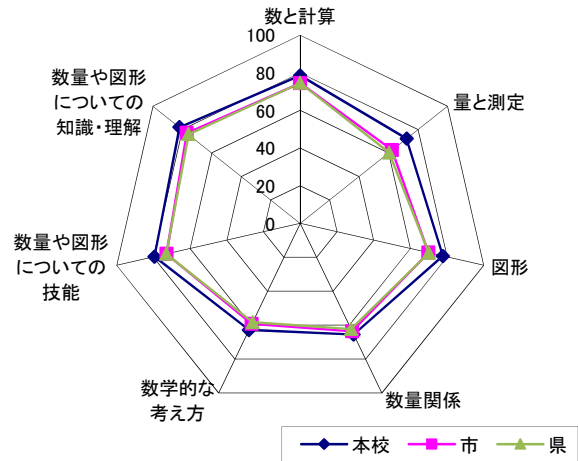
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市・県の平均を上回っている。 ○話し合いにおいて司会者の役割を理解し発言を整理する問題は県の平均を12.4ポイントも上回っている。話を最後まで聞いてから発言することを日頃から指導してきた成果であると考えられる。 ●話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する問題は市の平均を2.5ポイント下回っており、課題が見られる。	・学級活動等の学級全体の話し合い活動だけでなく、グループでの話し合い活動において、司会進行する場面を意図的に多く取り入れるようにする。
書くこと	平均正答率は、市・県の平均を上回っている。 ○文章構成を意識して報告レポートを書く問題は県の平均を11.6ポイント上回っている。また、メモや友達の意見を基に、報告レポートの内容を書く問題は県の平均を12.2ポイント上回っている。校外学習等で取ったメモを読み取り、振り返り等を書く活動を繰り返し行っていた成果であると考えられる。	・日頃から学校行事等を実施後、振り返りや感想を短作文で書く活動を多く取り入れ、書くことへの抵抗をなくすようにする。
読むこと	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○叙述を基に、登場人物の発言の内容を捉える問題は県の平均を4.6ポイント上回っている。国語の物語教材の読み取りのポイントを指導してきた成果であると考えられる。 ●中心となる語や文を捉えて読む問題は市の平均を3.5ポイント下回っている。	・要点を押さえながら、文章を読み解く練習を国語に限らず他教科でも丁寧に指導するようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市・県の平均を上回っている。 ○漢字の読み(平等)は県の平均を14.8ポイント上回っている。国語辞典の使い方問題は市の平均を14.3ポイント上回っている。漢字練習をしたり、国語辞典を引いたりすることを日頃から積極的に行っている成果であると考えられる。 ●漢字の書き(えんそく)の「遠」を正しく書く問題は県の平均を7.9ポイント下回っている。	・新出漢字だけでなく、前学年までの漢字練習を積極的に行うようにする。

宇都宮市立雀南小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	78.6	74.5	74.6
	量と測定	72.3	62.4	60.4
	図形	77.7	69.9	70.1
	数量関係	65.5	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	62.9	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	79.4	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	82.0	77.1	76.0



★指導の工夫と改善

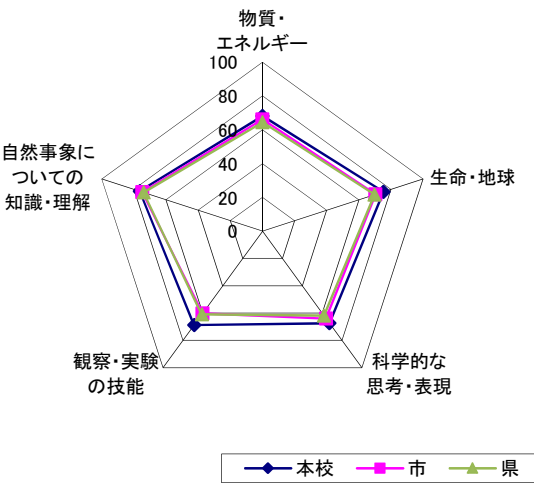
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市・県の平均を上回っている。 ○余りのある除法の計算の答えを確かめる式を完成させる問題は市の平均を18.2ポイント上回っている。たしかめ算をパターン化し、練習問題に取り組んできた成果であると考えられる。 ●1mのテープ図を4等分した一つ分の量を表す図を選ぶ問題は市の平均を7.7ポイント下回っている。	・線分図を読み取ることに課題があると思われる。日ごろから線分図や数直線を使って問題を解く場面を多く設定するようにする。
量と測定	平均正答率は、市・県の平均を上回っている。 ○ドッジボール1個のおよその重さを選ぶ問題は県の平均を19.6ポイント上回っている。「重さコーナー」を設け、身の回りにあるものを手に取って、実際に測って体感させた成果であると考えられる。 ○ある時刻に間に合う一番遅い電車の発車時刻を求める問題は県の平均を20.2ポイント上回っている。	・長さ・重さ・面積などは児童が実感を伴って理解できるよう教材の与え方を工夫する必要があると思われる。
図形	平均正答率は、市・県の平均を上回っている。 ○箱に入った同じ大きさのボールの半径の長さを選ぶ問題がよくできている。立体的なものを平面図に直し、分かっていることを書き込んで問題を解くことを行ってきた成果であると考えられる。	・図形では用語をきちんと覚え、用語を使って正しく説明できるよう継続的に指導していく。
数量関係	平均正答率は、市・県の平均を上回っている。 ○等分除の問題について、除法の式を立式し答えを求める問題は県の平均を12.9ポイント上回っている。除法になるキーワードを見つけ、立式する練習を繰り返して行ってきた成果であると考えられる。	・グラフから読み取る活動は、算数だけに限らず他教科でも積極的に取り入れ、グラフへの抵抗感をなくしていく。

宇都宮市立雀南小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	68.1	66.1	64.4
	生命・地球	75.3	70.4	69.8
観点	科学的な思考・表現	67.4	64.1	61.9
	観察・実験の技能	68.8	60.2	61.0
	自然事象についての知識・理解	76.4	74.8	74.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均を2ポイント上回っている。 ○設問内容「ものの形と重さや体積と重さの関係がわかる」では、市の平均を18ポイント上回っており、理解が深まるように具体物を使って指導した成果であると考えられる。 ●項目内容「虫眼鏡で集光したところの明るさと温度の変化がわかること」に課題が見られる。	・今後も児童の理解が深まるように、具体物を用いてわかりやすい授業の展開を行う。 ・虫眼鏡で集光したところの明るさと温度の変化については、実際に虫眼鏡を使って、光を集める体験を通して理解を深められるようにする。
生命・地球	平均正答率は、市の平均を5ポイント上回っている。 ○設問内容「虫眼鏡の適切な使い方がわかる」では、19.9ポイント、「方位磁針の適切な操作方法がわかる」では17ポイントと、ともに市の平均を大きく上回っており、学校での実験器具の使い方のルールをしっかりと定着させた成果であると考えられる。 ●「図をもとに昆虫を選択し、その理由を説明すること」に課題が見られる。	・今後も児童の理解が深まるように、実験器具の安全な使い方や正しい操作方法をしっかりと定着させていく。 ・「図をもとに昆虫を選択し、その理由を説明すること」は、昆虫の定義をしっかりと覚えられるように、インターネットの教育動画などわかりやすいコンテンツを使って理解を深めていく。

宇都宮市立雀南小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業を集中して受けている。」と回答した児童の割合は97.0%で、県の平均より7.8ポイント、市の平均より5.9ポイント上回っている。これからも授業の導入を工夫し、学び合う場面を多く設定し、学びを楽しみと感ずることできるようにしていきたい。

○「毎日、朝食を食べている」は100%で、県の平均より5.3ポイント上回っている。また、「毎日、同じくらいの時刻にねている」は84.8%で、県の平均より7.7ポイント、市の平均より6、2ポイント上回っている。今後も引き続き、家庭と連携し、意識の継続を図っていきたい。

○「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」と回答した児童の割合は69.7%で、県の平均より5.7ポイント、市の平均より8.1ポイント上回っている。放課後の時間の有効な使い方を今後も指導していきたい。

●「早寝、早起きを心がけている。」と回答した児童の割合は60.6%で、県の平均より17.2ポイント、市の平均より18.9ポイント下回っていた。保健や学級活動などで早く寝て生活のリズムを整えることの大切さを考えさせたり、懇談会や学年だより等を活用して保護者の啓発を図ったりしていきたい。

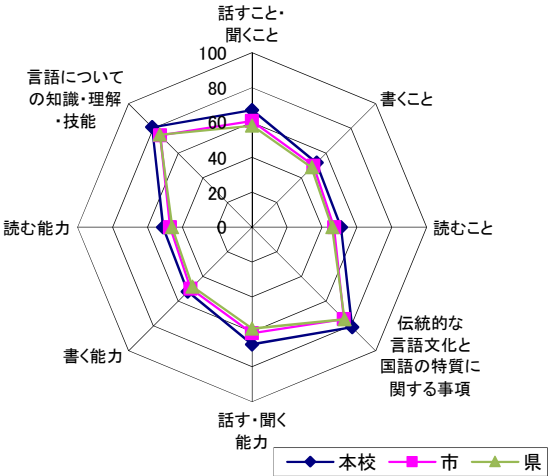
●「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」と回答した児童の割合は60.6%で、県の平均より15.0ポイント、市の平均より17.4ポイント下回っている。話すことを苦手としている児童が多いことがわかった。朝の会のスピーチや授業の中で話す機会を多く作り、自信をもって取り組めるような支援のあり方を工夫していきたい。

●「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」と回答した児童の割合は69.7%で、県の平均より19.0ポイント、市の平均より19.1ポイント下回っている。テストの間違い直しを自主学習のメニューに取り入れたり、学級懇談や学年だよりで家庭に呼びかけたりして、家庭での学習の仕方について具体的に示し、取り組めるようにしていきたい。

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	67.1	60.8	58.1
	書くこと	52.2	49.8	48.3
	読むこと	51.0	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	81.0	74.4	74.8
観点	話す・聞く能力	67.1	60.8	58.1
	書く能力	52.2	49.8	48.3
	読む能力	51.0	47.0	45.9
	言語についての知識・理解・技能	81.0	74.4	74.8



★指導の工夫と改善

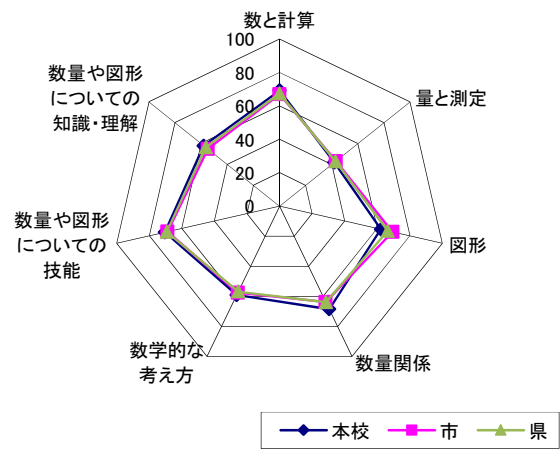
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話すこと・聞くことの観点の平均正答率は67.1%で、市や県の平均を約7ポイント上回っている。 ○話し合いにおける考えの共通点などを整理して話すことや考えること、意見の共通点を考えて書くこと、司会者の役割を理解して進行することなどすべての項目で市や県の平均を上回っている。	・日常の授業の中で小グループに分かれて意見を出し合う話し合い活動は取り入れている。その中で相手の意見を聞き、自分の意見との共通点・相違点を整理するように指導を継続していく。 ・自分の意見を記述する設問では、他の設問と比べて正答率が低くなっているため、これまで以上に、自分の意見を表現する機会を設定し、取り組んでいく。
書くこと	○書くことの観点の平均正答率は52.2%で、市や県の平均を約4ポイント上回っている。 ●結果をもとに、必要な内容を整理して書くという項目では市の平均を0.5ポイント下回っている。 ●漢字を書くことはほとんどできているが、「はしらに印を付ける」という設問のみ市や県の平均を7ポイントほど下回っている。	・漢字の学習は、毎日の宿題や学校での学習で取り組んだ成果が見られた。 ・「必要な条件を入れて自分の意見を文章にして書く」という設問は苦手な傾向が見られた。日々の学習の中で、文章を書くことに慣れさせていくこと、さらに発展させて条件を入れて自分の意見を文章に書くことを日常的に取り入れて指導していく。
読むこと	○読むことの観点は市や県の平均を4ポイントほど上回っている。 ○文章の要点や細かい点に注意しながら読み、整理する項目は県の平均10ポイント近く上回っており、文章の内容をとらえる力が身につけている。 ●登場人物の気持ちを想像して読む項目は県や市の平均と同じポイントになっている。	・学習では説明文で段落を整理して内容を読み取るなど、段階を踏んで内容をとらえる力が身につけてきている。しかし物語文では情景や登場人物の心情を想像しながら読むことが苦手だということがわかる。日常的に読書を推奨し、物語に慣れさせること、そして登場人物の心情や情景の想像力をつけることを意識して指導していく。 ・文章の要点や論点を明らかにしながら文章を読み進めていく指導はこれまで通り続けていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項においては市や県の平均より約5ポイント上回っている。 ●漢字の部首の設問において、児童の正答率の差が大きい。	・日常の学習の中で漢字辞典や国語辞典を使用する機会を増やしているため、児童の言語の意味や使い方の習得につながっていると考えられる。今後も辞典の使用した学習を続けていく。また、日常で使われる言葉に関しても使い方を都度確認しながら指導する。 ・新出漢字の学習の際に漢字の部首の持つ意味を全員が考えられるよう、一文字一文字丁寧に指導することを心掛けていく。

宇都宮市立雀南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.2	66.9	67.4
	量と測定	42.0	43.2	43.0
	図形	62.3	69.4	66.5
	数量関係	68.5	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	59.0	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	70.3	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	58.0	54.9	56.4



★指導の工夫と改善

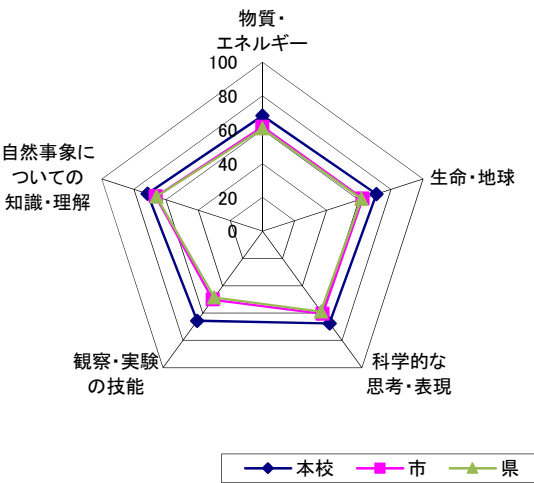
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○小数の減法の概算の結果としてふさわしい数値を選ぶ問題の正答率は81. 2%で、市の平均より9. 4ポイント上回った。さらに、3位数÷2位数の計算は正答率が71. 0%と市の平均を5. 5ポイント上回った。 ●小数と整数の中から、一番大きい数を選ぶ問題の正答率は、市の平均を5. 6ポイント下回った。	・小数と整数の中から条件に合った数を選択させる際に、数直線を有効的に活用し、数の概念の形成をしていきたい。 ・小数の概念についても、1. 8は0. 1を何個集めた数なのかを考える問題の正答率が低いため、何度も類似問題を解かせ、定着を図っていく。
量と測定	○どの問題にも無解答率が低い。図をもとに180°より大きい角度の求め方を説明する問題では、市の正答率より2. 2%上回った。 ●面積に関する設問に対して、市の平均との差はほとんどないものの、正答率が43. 5%と低く、さらに、はがきのおよその面積を選択する問題の正答率も33. 3%と低い。	・面積の基本的の求積の考え方について、再度復習を通して確認し、児童には「1cm ² の正方形の何個分か」という考え方を振り返らせ、公式へとつなげていくことを復習し、確認する。
図形	●与えられた2辺の続きをかくて、平行四辺形を完成する設問に対しては、正答率が69. 6%と市の平均を4. 4ポイント下回った。また、平面上にあるものの位置を表す問題の正答率は69. 6%で、市の平均より9. 6ポイント下回った。	・図形の学習で作図についてはおおむね操作ができているので、つまづきが見られる児童には作図の技能を向上させるような問題を用意し、定着を図れるようにする。
数量関係	○買い物の場面で、1つの式に表しおつりを求める問題の正答率は71. 0%で、市の平均より18. 8ポイント上回った。さらに、二次元表の欄にあてはまる数を求める問題の正答率は69. 6%で、市の平均より9. 0ポイント上回った。 ●一人の考え方を選び、一つの式に表し、おつりを求める設問に対しては、正答率が50. 7%と市の平均を4. 1ポイント下回った。また、基準量より比較量の方が小さい場合で何倍かを求める問題の正答率は39. 1%で、市の平均より8. 8ポイント下回った。	・変わり方の数字を求めることはおおむね理解できているが、○や△を使った関係を式に表すことがまだ身についていないので、簡単な数字を当てはめて計算したり、記号を使った式を意識しながら立式できるように取り組んでいく。 ・何倍かを求める問題の正答率が低いため、文章をよく読ませ、基準量の数値についてしっかり考えさせる場面を設け、取り組むようにする。

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	68.3	61.7	60.7
	生命・地球	70.9	62.4	61.6
観点	科学的な思考・表現	67.6	60.6	58.9
	観察・実験の技能	65.6	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	71.5	66.3	66.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○本校の正答率は県の平均を7.6ポイント上回った。 ○「もののあたため方」「電気」の問題については、全ての設問で県の平均を上回っている。 ○記述式の問題については、良好な正答率であった。無回答率が低い。 ●「温度による体積の変化」については、全ての設問で県の平均を下回っている。 ●「ふっとう」という語句が書けていない児童が多い。 ●県の平均との開きが大きかった問題の多くが基礎の問題であり、県平均も高いものであった。 ●児童の正答率の差が大きい問題が多い。	・実験や観察の際には、自分の予想や考察を書かせるようにし、理科学的な言葉を使って説明することへの抵抗感を減らす。 ・自分で説明したり、友達と話し合ったりする活動を取り入れ、深く考える力をつける。 ・液体の温度変化を扱う単元で、前学年の内容を復習し内容の定着を図る。 ・実験方法や結果だけでなく、語句の意味や使い方を覚えるなど、基礎基本の習得に力を入れるようにしていく。 ・どの児童も興味をもって授業に参加できるように、興味関心を引くような授業内容を検討する。
生命・地球	○本校の正答率は県の平均を9.3ポイント上回った。 ○昆虫や動物、植物のそれぞれについて、季節による成長の様子が理解できていた。 ○方位磁針について、名称や使い方が理解できていた。 ○どの問題についても無回答率が低い。 ●一連の運動をしているときの筋肉の様子についての問題で正答率が県の平均を下回った。また、「関節」を答える問題でもわずかではあるが正答率が県の平均を下回った。 ●児童の正答率の差が大きい問題が多い。	・実験方法や結果だけでなく、語句の意味や使い方を覚えるなど、基礎・基本の習得に力を入れるようにしていく。ただ、その際に一問一答で暗記させるようにするのではなく、生活経験や既習事項と関連させていくことで、理科学事象の意味や語句の意味、使い方を理解できるようにする。 ・どの児童も興味をもって授業に参加できるように、興味・関心を引くように授業内容を工夫し、授業実践を図る。

宇都宮市立雀南小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学びの基礎力の平均スコアが75.5%でほぼ県や市平均と同じであるが、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」と回答した児童は91.4%、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」と回答した児童の割合は82.9%で市や県の平均を上回り、学びに向かう力が優れていた。また、「先生は、学習のことについて褒めてくれる」は、94.3%で県の平均を9.8ポイント、市の平均を7.4ポイント上回っており、自己有用感につながっていると思われるが、「自分は勉強がよくできる方だ」では、35.7%で県の平均を18.3ポイント、市の平均を20.4ポイント下回っている。これらのことから学習意欲が高まってきたが、個人差が大きく自信が持てない児童がいると考えられる。個に応じた指導を計画的に行い、自己肯定感を高めていけるように支援していきたい。

○「授業では、発表の機会を発表する機会を与えられている」と回答した児童は90%、「クラスは発言しやすい雰囲気である」は91.4%、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」は、90%と県や市の平均を大きく上回っている。しかし、「友達の前で自分の考えや意見を発表するのは得意である」は、38.6%と県の平均を11ポイント、市の平均を11.8ポイント下回っている。対話力には問題はないと思われるので、話す機会をこれまで以上に増やして、互いに認め合ったり、よさを具体的に伝え合ったりして自信を持たせるような指導を心掛けていきたい。

○家庭学習力の平均スコアが、69.2%であり、県の平均を2.7%上回っていた。「家で学校の宿題をしている」では、肯定回答が97.1%、県の平均とほぼ同じであるが、「宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」では、肯定回答が91.4%で県の平均を29.1ポイント、市の平均を25.8ポイント上回っている。しかし、「予習をしている」は、51.4%で県の平均を5.7ポイント、「テストで間違えた問題について勉強をしている」は、61.4%で県の平均を6.5ポイント下回っていた。家庭学習をする習慣は、身に付いているので、今後は、具体的な内容に踏み込んだ指導を行いようにする。

●「算数の学習は好きですか」の肯定回答は、61.4%と県の平均を8.7ポイント市の平均を10.7ポイント下回っており、「算数の授業の内容が分かりますか」の肯定回答は、82.6%で県の平均を5.5ポイント、市の平均を6.9ポイント下回っている。学習内容が難しくなり苦手意識があるようである。めあての明確化と学びを実感できる振り返りの充実を図ることや児童の実態に応じた習熟度別学習の実施を工夫してきめ細かい指導を心掛ける。

●算数や理科において、「授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている」が県や市の平均を5ポイント以上、下回っている。身の回りの事象を学習したことを使って解決するなど生活の中で生かす学習を取り入れていきたい。

宇都宮市立雀南小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えを深め、文章にまとめる指導の充実	条件にあった内容の短作文(100文字程度)に継続的に取り組ませる。また、授業の中で自分の考えを書く活動を意図的に取り組んでいる。	記述式の問題の正答率が、4年生で9.8ポイント、算数1.9ポイント、5年生で国語5.2ポイント、算数2.6ポイント県の平均を上回っている。 国語の「書くこと」の項目では、4年生で5.2ポイント、5年生で9ポイント県の平均を上回っている。
言語活動の充実	ペアやグループによる話し合い活動を授業に位置付けて展開を図るようにしている。また、教科や領域の単元の特質を生かした言語活動を取り入れて実践化を図っている。	国語の「話すこと聞くこと」の項目では、4年生で5.2ポイント、5年生で9ポイント県の平均を上回っている。
活動のめあての明確化と振り返りの充実	「何ができるようになるか」を明確にして授業の構想を立て、児童が見通しをもって学習に取り組めるように実践化を図るとともに、学びを実感できるような振り返りを行っている。	「授業では、授業の目標(めあて・ねらい)が示されている」の肯定回答率は、4年生は87.9%で県の平均を4ポイント、5年生は、95.7%で6.2ポイント上回っている。「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の肯定回答は、4年生では59.1%で県の平均を11.7ポイント下回ったものの、5年生は78.6%で2.1ポイント上回っていた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
算数の「図形」「面積」の問題で5年生が正答率の低い傾向にあった。	課題のある問題及び関連する学習内容について、系統的に捉え、指導の重点化を図る。	年間指導計画に朱書きし、指導の重点化を図り、学習の終了時に、課題のあった問題を解かせる。「学びロング」の時間を年13回設け、つまずきの状況に応じた指導をする。